

## 21世紀の日本のかたち（39）

### 力強い生命の網の目社会を築く —東北関東大震災の復興に向けて—



戸沼幸市  
〈(財)日本開発構想研究所 理事長〉

平成23（2011）年3月11日、東日本の太平洋沿岸部の平和な集落、都市を壊滅させた三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震（M9.0）の経過を重苦しい気持ちで見守り続けております。

生命、財産、住居を包む一切の生活手段・環境を巨大な津波は、一瞬にして破壊し押し流してしまいました。

そしてこの地域の生産手段である漁場、農場、工場などを無残に破壊してしまいました。

地域社会に張られていた生命の網が目前でずたずたに引き裂かれたのです。

死者と行方不明者を合わせた数は、11日の地震発生から9日目の20日までに2万人を超えたと報じられております。

現地の困難に対して、ようやく災害復興に向けた支援の輪が大きく広がりつつあります。

この度の大地震・津波は福島県の海岸に立地する原子力発電所に極めて深刻なダメージを与え、原子力発電機の破壊による放射能汚染は今も危険を拡大させています。国際社会も事の推移に重大な関心を寄せています。

この大事故に対して国民は、関係者の懸命な努力、日本の危機回復技術を信頼しつつ、最悪の事態を回避してほしいと祈る思いで見守っております。

す。

東北関東大震災発生の日から、私どもの研究所へも海外からお見舞いのファックスやメールをいただきました。この場を借りてお礼を申し上げる次第です。

日本の戦後最大の大災害です。国難ともいえる今回の大災害に対峙して、21世紀、四方を海に囲まれた日本列島に営むべき人間居住を多方面に根本的に再検討すべきと考えます。

この度の大災害に対しては、復興を目指しつつこれを超えて、国家、民族の底力を信じ、信頼のネットワークでつながる柔軟で力強い生命の網の目社会を再構築、再創造しなければならないと考えます。

当研究所としても「東北関東大震災災害復興」に向けた自主研究会を立ち上げ、日本都市計画学会、関連学会協会、大学などとネットワークを組んでこの事態の改善に微力を尽くしたいと考えております。

(2011.03.20)